

就職して2年目の我が家の長男の話である。配属されている部署は、「海外探査課」というところである。名前からして海外駐在や海外出張がある部署である。ところが、彼はまだ海外出張をしたことがない。

彼も考えたらしく、上司に「2年目になるんですが、まだ海外出張に行ったことがないんですが」のようなことを言ったらしい。すると、上司から「そうだね、では今度のアメリカの学会に行ってもらおうか」となったというのである。本当だろうか。要約すれば、こういうことらしい。

というわけで、彼が以前使っていたスーツケースを部屋から出し、お盆で帰省した娘に預け、彼の元に届くようにした。アメリカのヒューストンに一人で行くという。それも学会である。いろいろと心配ではあるが、一番は彼の英語力である。専門の学会に参加して何とかなるほどの英語力だったか。親の心配をよそに、8月28日、彼は旅立っていった。

今の世の中、誠に便利である。ラインで報告がくる。「ヒューストンに着きました。写真のハンバーガーで16\$、2400円。気温41℃。ただ日本と同じくらいに感じる」写真には、ハンバーガーの何倍ものポテトの山が写っている。さすがはアメリカである。ホテルの部屋は、一人なのにダブルベットが2つもある。無事に着いたことはわかった。

次の心配は、肝心の学会である。2日後に、またラインがきた。学会の様子の写真がきた。私のイメージとは違った。学会というよりは、様々なブースが設けられた展示会のような感じだった。「招待されたカクテルパーティーに出たけど、意外と雑談ペースならこなせることがわかりました。ただ、ビジネスの話はさっぱりでした」との報告だった。やっぱり。これでは、仕事としてどうなのだろうか。本人は思っていないかもしれないが、親としては、息子のわがままを聞き、アメリカに送り出してくれた職場の上司の方に申し訳ない。

8月30日には、福島地区中学校英語弁論大会が開かれた。私は、主催者として開会式であいさつをした。各中学校の生徒たちの英語弁論を聞かせてもらったが、実に頼もしかった。声に力があつた。こういった人たちの中から、国際社会で活躍する人材が出てくるのかもしれない。英語が好きで得意であることは、これからの人生を力強く歩んでいくための武器となる。

中学校の英語の授業は昔とはだいぶ違う。若者たちがどのくらい英語力をつけてくれるのか楽しみである。息子には、大学生のときに、「英語だけはやっておけよ」とよく言っていた。案の定である。今回、アメリカに行かせていただき、彼も身に染みたであろう。英語ができなければ、海外探査課は務まらない。そう思う。

ちなみに、彼は博物館で財布をなくした。海外においてあるまじき、やってはいけない行為である。自分の歩いたルートをたどり必死に探した。見つからない。受付に行き、財布をなくしたのだが、届いていないかを聞いた。すると、受付の女性がニヤニヤしている。届いていた。ここは、アメリカである。奇跡以外の何ものでもない。彼は、こういう人である。